

審議会等の会議の概要の記録

会議の名称	令和4年度 第4回甲州市戦略会議
開催日時	令和4年11月14日(月) 午後2時00分から午後4時00分
開催場所	甲州市 勝沼防災センター
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 「甲州市のDXの推進」について 甲州市総務課デジタル推進担当 武井一徳副主幹 2 山下善雄委員提案「これからの甲州市のDX」 3 横内正史委員提案「フィールドミュージアムによる地域活性化」 4 グループ討議「DXの推進によるフィールドミュージアム構想」 5 まとめ
出席委員	岡村美好委員、小林和人委員、土屋隆男委員、寺田秀昭委員、中村一政委員、中村猛志委員、古屋亮委員、松坂浩志委員、山下善雄委員、横内正史委員 (五十音順)
会議の公開又は非公開の区分	非公開
会議を一部公開又は非公開とした場合の理由	委員がより自由な発言をできるようにするため
傍聴人の数	—
審議概要	別紙のとおり
事務局に係る事項	出席者 政策秘書課3名(林リーダー、三森、宮川)
その他	

<p>内容</p> <p>1. 開会</p> <p>2. 会長あいさつ</p> <p>3. 議題</p> <p>(1) 「甲州市のDXの推進」について</p> <p>(2) 山下善雄委員提案「これからの甲州市のDX」</p> <p>(3) 横内正史委員提案</p> <p>(4) グループ討議「DXの推進によるフィールドミュージアム構想」</p> <p>(3) まとめ</p>	<p>次第に基づき以下のとおり進められた。</p> <p>○事務局(林) 開会</p> <p>○中村会長あいさつ</p> <p>○甲州市総務課デジタル推進担当 武井一徳副主幹「甲州市のDXの推進」について資料に基づいて説明。</p> <p>○山下善雄委員「これからの甲州市のDX」について資料に基づいて説明。</p> <p>○横内正史委員「フィールドミュージアムによる地域活性化」</p> <p>○中村会長 「DXの推進によるフィールドミュージアム構想」についてA班、B班に分かれてグループ討議をお願いする。</p> <p>【A班】 座長：松坂浩志委員、小林和人委員、土屋隆男委員、横内正史委員</p> <p>【B班】 座長：古屋亮委員、岡村美好委員、寺田秀昭委員、中村一政委員、山下善雄委員</p> <p>グループ討議：午後2時45分から午後3時50分</p> <p>○中村会長 グループ討議の内容について班ごと説明をお願いする。</p> <p>【A班】 松坂委員</p> <p>大前提として、今後間違いなくデジタル化は進んでいく。2040年に向けてというより、2030年には圧倒的にデジタル化が進むだろうということが皆さんの共通認識としてあった。そういう中で、甲州市のデジタル化の現状を見てみると、例えば観光においては、情報</p>
--	---

の共有共通化が出来ていない。そこにアクセスが出来ていない現状を大至急進めていかなければならない。それは 2040 年に向けての DX 化というより、2040 年の DX 化を行う前提には今あるデータの共有共通化が大至急必要であるということが議論された。

また、DX 化を進める上でどんな問題を解決していくのかという目標や目的を掲げることも非常に重要である。その目的の中には、まず人口問題、産業の問題で、特に農業と観光の問題を DX で解決すべきだろうという意見が多く出た。今後、甲州市の人口は明らかに下がっていくが、交流人口や関係人口、定住人口を増やし安定させていくためには、その人たちの糧を何とかしなければならない。その糧を確保する一つ的手段として、農業の DX 化や観光の DX 化が有効であるという議論がされた。

そのためには、真っ先に DX 化の推進に取り組まなければ、2040 年に向けての DX は遅れをとってしまう。DX の推進については、2040 年に向けての戦略の提言もだが、まず、DX の推進を進めていく必要があるだろうということが A 班の議論の結論である。

【B 班】 古屋委員

「誰もが住みたいまち」ということを考えていく必要は当然であり、また、食べていくという産業のところも併せて必要だろうという話が出た。まず、誰もが住みたいまちに向けた DX ということを考えてみると、教育の部分がポイントになってくる。これは、山梨が常に弱点と言われる部分でもあるが、東京や神奈川等に比べて教育のレベルが低く、高度教育へのアクセスが良くない。どうしても高校、大学になるとより高度な教育を求めて出ていく人たちがいる。それを DX により山梨に住みながらも高度教育を受けられる環境を整備することが出来れば、この山梨の素晴らしい住環境に住みたいという人が増やせるのではないか。そのための DX 化を 2040 年に向けて、第一に考えていく必要があるという意見が出た。

併せて、人口が減少していく中で、交流人口が益々重要になってくる。そういった中で、甲州ブランドを考えたときには確実性のある農業技術が必要になってくるのではないか。それを確立するため、甲州市での農作業やワインの生産に係る業務の標準化を DX の力でやっていく必要がある。

また、観光や文化においても、情報の一元化であったり、例えば甲州市にある国宝を発信していくための DX も考えていく必要があ

<p>4. その他</p> <p>5. 閉会</p>	<p>るという意見も出た。</p> <p>2040年に向けてDXの推進は当然進めていく必要はあるが、それ以前にDX化にアクセスできない弱者の高齢者の方々をどう考えていくのかということも提言として必要だという議論もあった。DX化でアクセスできない人もいるが、一方でアクセスしてくることで活用できる人材もいる。例えば、甲州市出身で外部に出た人等もいかに政策の中に組み込んでいくかも一つ大事な点であるという意見もあった。</p> <p>そして最後に、寺田委員からの強いご意見で、2040年を見据えた中で、「研究開発」という言葉がキーワードになってくるといった話があった。農業技術のDXは、摘粒だけではなく、例えば土壌の水分、農薬散布のタイミング等まだまだ確立した技術が出来上がっていないものも多い。それをDX化によって確立することができるのではないかと。そういった研究開発を行う都市というのは、メッセージとして発信する価値があるものだというご意見をいただいた。以上が私たちBグループでの議論である。</p> <p>○中村会長 これでは議事を終わらせていただく。</p> <p>○事務局（林）本日で今年度4回の会議が終了し、年明けの1月が第5回目となる。テーマは「首都直下型地震等災害時の首都機能サポート」となっている。本市にとっては非常に難しく深い内容となっているため、進め方等を正副会長と相談する中で決定したい。早めに日程を調整し、日程と会場の詳細について速やかにご通知させていただきたい。その後、3月の最終会議では、提言書としてまとめて戦略会議から市長へ提言書の提出していただきたいと考えている。あと2回会議があるのでよろしくお願いいたします。</p> <p>○寺田副委員長 閉会</p>
----------------------------	---